

温州ミカン新品種‘佐賀果試9号’の育成					
[要約] ‘上野早生’の <u>珠心胚実生</u> である‘佐賀果試9号’は、同時期の‘ <u>上野早生</u> ’に比べて <u>着色</u> や <u>減酸</u> が早く <u>糖度</u> が高い。					
果樹試験場・品種開発研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	育 種	対 象	温州みかん

[背景・ねらい]

佐賀県における温州みかんは、10月に出荷する極早生の品質が、その後出荷される温州みかんの市場価格に大きく影響する。そこで、10月に出荷可能な品質の高い温州みかんとして、‘上野早生’より樹勢が強く、着色や減酸が早く糖度が高い‘佐賀果試9号’を育成した。

[成果の内容]

1. 本品種は、1995年に‘上野早生’を母本に‘川野夏ダイダイ’を花粉親にして交配した珠心胚実生である。2004年から‘佐賀果試9号’として特性調査を開始し、2013年に選抜を完了した。2014年7月14日に品種登録出願公表された。
2. 果皮色及び着色程度は‘上野早生’と比較して高い(表1)。ハンターLabのa値については‘上野早生’より高い(表1、写真1)。
3. ‘上野早生’と比較して、クエン酸含量は0.28ポイント少なく、糖度は1.6度高い(表1)。
4. 糖酸比は11.6であり、‘上野早生’と比較して4.5高い(表1)。
5. マルチ栽培では、いずれの年も10月中旬で11度以上となった(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 糖度を上げるため6月上旬(梅雨入り前)のマルチ被覆を実施する。
2. 水はけが良く、乾燥しやすい園地で栽培する。平坦地の場合は高うね栽培を行う。なお、減酸の状況によっては灌水が必要であり、用水を確保できる園地が望ましい。
3. ‘上野早生’と比較すると樹勢は非常に強くトゲの発生が見られるが、経年により消失する傾向にある。

[具体的データ]

表1 ‘佐賀果試9号’の果実特性(2011年より3ヶ年の平均値 調査日:10月1日)

品種名	横径 (mm)	縦径 (mm)	果形 指数	果重 (g)	果肉 歩合	果皮色 (※1)	着色	a (※2)	浮皮 (※3)	クエン酸 含量 (%)	糖度 (Brix)	糖酸 比
佐賀果試9号	60.5	48.8	124.1	96.6	85.1	2.3*	3.5*	-3.3*	0.0	0.87*	9.7*	11.6*
上野早生	60.7	48.0	126.4	93.0	85.4	1.2	1.9	-14.0	0.0	1.15	8.1	7.1

※1 独法果樹試カラーチャート値 ※2 ハンターLab a値 ※3 基大3 軽1 無0

※4 ‘上野早生’をコントロール群としてDunnettの検定により比較した場合、*印のあるものは5%水準で有意差あり

表2 ‘佐賀果試9号’のマルチ栽培における果実特性

年次	調査日	品種	被覆日	横径 (mm)	果実重 (g)	着色歩合 (分)	糖度	クエン酸 (%)
2012年	10/12	佐賀果試9号	6/7	61.4	90.5	9.7	13.1	1.24
	10/13	上野早生		57.8	80.9	8.7	11.7	1.17
2013年	10/10	佐賀果試9号	6/10	64.0	102.9	3.1	11.4	0.96
	10/15	上野早生		64.0	111.5	—	10.2	1.28
2014年	10/10	佐賀果試9号	6/5	60.7	91.7	8.4	11.1	1.04
	10/20	上野早生		61.6	92.0	9.7	10.3	1.36



写真1 ‘佐賀果試9号’着果状況及び果実比較(上段;上野早生 下2段‘佐賀果試9号’)

[その他]

研究課題名: 極早生・早生温州みかんのブランド確立のための突然変異を利用した新品種の育成

予算区分: 県単

研究期間: 1995~2013年度

研究担当者: 松尾洋一、八田聡、坂井有美子、中村典義、野中美穂子、納富麻子、竹下大樹

発表論文等: 松尾ら ‘佐賀果試9号’品種登録出願公表 2014年7月14日(第28893号)